

1 調査の目的

本調査は、区政に対する区民の意識や意向、評価などを把握し、今後の行政施策の検討・立案の際の基礎的参考資料として活用することを目的に実施した。

2 調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 重点施策について
- 4 品川区長期基本計画について
- 5 区議会について
- 6 地域活動への参加について
- 7 環境について
- 8 ごみ減量・リサイクルについて
- 9 オリンピック・パラリンピックについて
- 10 防災について
- 11 読書と図書館利用について
- 12 広報と情報化について
- 13 シティプロモーションについて

3 調査設計

- | | |
|-----------|--|
| (1) 調査地域 | 品川区全域 |
| (2) 調査対象 | 品川区在住の満 20 歳以上の男女個人（平成 30 年 6 月 1 日現在） |
| (3) 標 本 数 | 1,500 標本 |
| (4) 母 集 団 | 品川区住民基本台帳の満 20 歳以上の男女個人 |
| (5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| ①層 化 | 品川、大崎、大井、荏原、八潮の 5 地域を基本に 8 地域に層化し、地域の人口比に応じて地点数を比例配分する。（合計 150 地点） |
| ②地点抽出 | 無作為に決めたスタート地点から等間隔抽出法により、地域ごとに地点を抽出する。 |
| ③対象者抽出 | 各地点とも最初の対象者から 10 人目ごとに 10 人を抽出する。 |
| (6) 調査方法 | 調査員による個別面接聴取法 |
| (7) 調査期間 | 平成 30 年 6 月 22 日～7 月 20 日 |
| (8) 調査機関 | 株式会社 タイム・エージェント |

地域区分図



調査地域内訳

地 域 名	左記地域に包括される町（丁）名
品 川 地 域	東品川、北品川、南品川、西品川、広町
大 崎 地 域	上大崎、東五反田、西五反田、大崎
大 井 東 地 域	東大井、南大井、勝島
八 潮 地 域	八潮
大 井 西 地 域	大井、西大井
荇 原 東 地 域	戸越、豊町、二葉
荇 原 中 地 域	平塚、中延、西中延、東中延、旗の台（2～5丁目）
荇 原 西 地 域	小山台、小山、荇原、旗の台（1・6丁目）

※参考：各地域の高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合・平成30年6月1日現在）

各地域の高齢化率

	区全体	品川	大崎	大井東	八潮	大井西	荇原東	荇原中	荇原西
総人口（人）	391,992	70,156	67,825	53,671	12,123	46,202	43,438	47,749	50,828
65歳以上（人）	81,704	14,476	11,375	9,733	4,095	9,888	10,792	10,601	10,744
高齢化率（%）	20.8	20.6	16.8	18.1	33.8	21.4	24.8	22.2	21.1

4 回収結果

- (1) 標本数 1,500
- (2) 有効回収数 1,068 (有効回収率: 71.2%)
- (3) 回収不能数 432

(4) 地域別回収結果

地域別回収結果

地域	20歳以上人口 (人)	構成比 (%)	標本数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
区全体	335,116	100.0	1,500	1,068	71.2
品川地域	59,197	17.7	266	182	68.4
大崎地域	58,041	17.3	263	164	62.4
大井東地域	45,609	13.6	208	158	76.0
八潮地域	10,428	3.1	46	39	84.8
大井西地域	38,913	11.6	173	124	71.7
荏原東地域	37,829	11.3	165	128	77.6
荏原中地域	41,457	12.4	184	130	70.7
荏原西地域	43,642	13.0	195	143	73.3

(5) 回収不能の内訳

回収不能の内訳

	全体	転居	不在	拒否	住所不明	その他
人数(人)	432	20	313	95	2	2
内訳(%)	100.0	4.6	72.5	22.0	0.5	0.5

5 報告書を読む際の留意点

- (1) 回答比率 (%) は、当該選択肢の回答者数を、各層における回答者の総数（表中の“n”）で除算している。なお、回答比率 (%) は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表記している。
- (2) 単一回答の設問では、集計表の数値が上記（1）における四捨五入の処理のため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100%以上となる。
- (3) クロス集計のグラフや表について、表側（表の左側に配置される項目）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含まれるので、表側の各層における件数の合計が、全体の件数と一致しない場合がある。
- (4) 数値を読み解く際、特に回答者数が少ない層においては、その標本誤差に留意する必要がある。
- (5) 標本誤差 d は層化二段無作為抽出法においては以下の計算式で表される。

$$d = \pm \lambda \times \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

λ : 信頼係数

N : 母集団の大きさ

n : 回答者の総数

p : 回答比率

95%信頼水準の場合、信頼係数は1.96であり、また、母集団の大きさが標本の大きさに対して十分に大きいとき、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ となるため、上記の式は以下のように近似できる。

$$d = \pm 1.96 \times \sqrt{2 \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

下表は本報告書において簡便に標本誤差を確認できるようにした早見表である。

標本誤差早見表

回答比率 (p) / 回答者の総数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,068	2.5	3.4	3.9	4.2	4.2
500	3.7	5.0	5.7	6.1	6.2
300	4.8	6.4	7.3	7.8	8.0
200	5.9	7.8	9.0	9.6	9.8
100	8.3	11.1	12.7	13.6	13.9
50	11.8	15.7	18.0	19.2	19.6

(6) 本文やグラフ・集計表上の表記は、紙面の都合上、語句を簡略化している場合がある。

(7) ライフステージの分類は以下のとおりである。

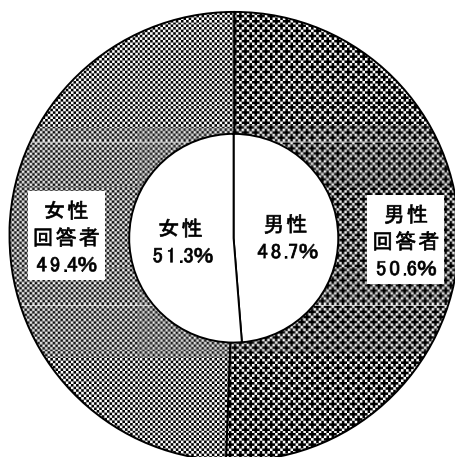
- A. 独身期 40歳未満の独身者
- B. 家族形成期 40歳未満の子供のいない夫婦または一番上の子供が小学校入学前の人
- C. 家族成長前期 一番上の子供が小・中学生の人
- D. 家族成長後期 一番上の子供が高校・大学生の人
- E. 家族成熟期 64歳以下で一番上の子供が学校を卒業している人
- F. 高齢期 65歳以上の人
- G. その他 40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子供がいない夫婦など

6 母集団との比較

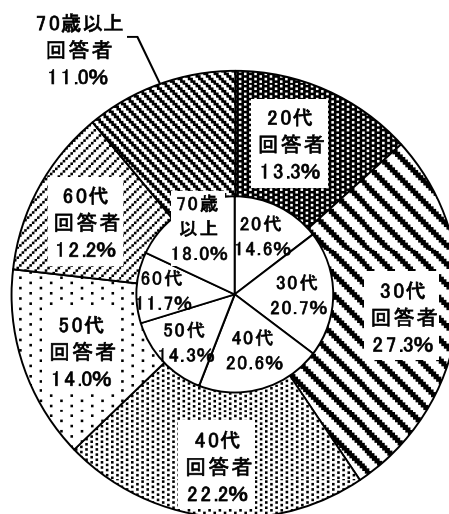
母集団（品川区住民基本台帳の20歳以上の男女個人）と比べると、調査回答者の性別では男性が1.9ポイント高くなっている。また、年齢では30代の回答者が6.6ポイント高く、70歳以上の回答者が7.0ポイント低くなっている。

(注) 母集団は、品川区の総人口：391,992人（男性192,320人、女性199,672人）から、0歳～19歳人口：56,876人（男性28,988人、女性27,888人）を除いた人数となる。

(1) 性別



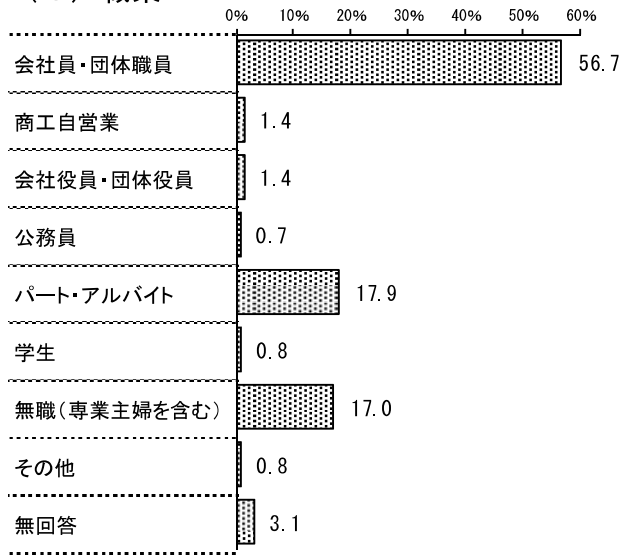
(2) 年齢



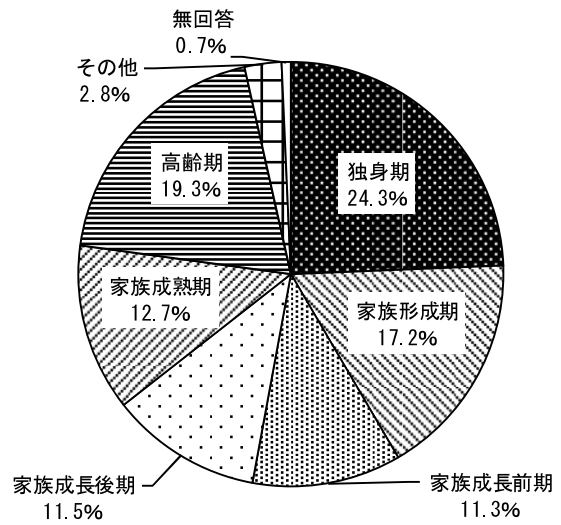
(注意) 内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している。

7 調査回答者の属性

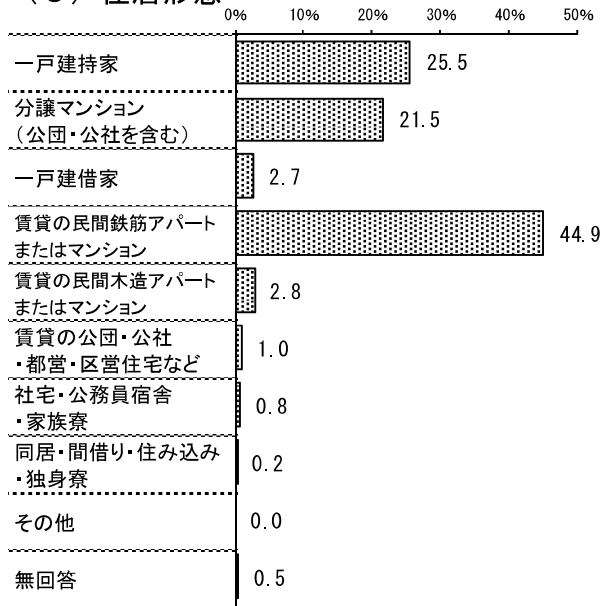
(1) 職業



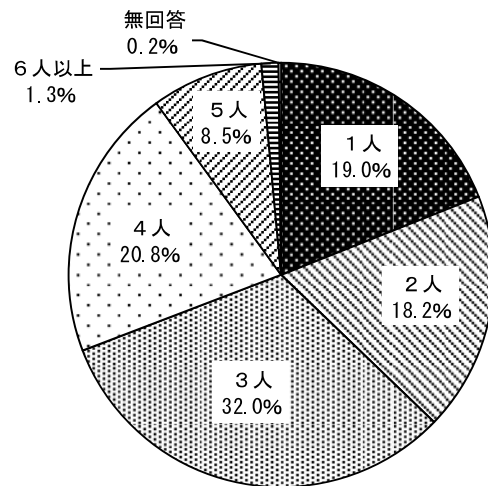
(2) ライフステージ



(3) 住居形態



(4) 家族人数



(5) 定住意向

